

第9回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 令和4年9月2日(金)
開会 13時30分 閉会 15時31分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者
- | | |
|--------------|------------|
| 教育長 | 鍵本 芳明 |
| 委員(教育長職務代理者) | 上地 玲子 |
| 委員 | 松田 欣也 |
| 委員 | 梶谷 俊介 |
| 委員 | 田野 美佐 |
| 教育次長 | 浮田 信太郎 |
| 教育次長 | 梅崎 聖 |
| 学校教育推進監 | 川上 慎治 |
| 教育政策課 | 課長 大西 治郎 |
| | 副課長 有田 純子 |
| | 総括主幹 石崎 貴史 |
| 教職員課 | 課長 鈴鹿 貴久 |
| 高校魅力化推進室 | 室長 室 貴由輝 |
| 文化財課 | 課長 江草 大作 |
- 4 傍聴の状況 0名
- 5 附議事項
(1) 岡山県教育委員会規則の一部改正について
- 6 協議事項
(1) 令和4年9月岡山県議会定例会提出予定案件について(追加分)
(2) 岡山県教育関係功労者表彰について
(3) 令和5年度県立高等学校第1学年生徒募集定員の策定方針について
(4) 高等学校における通信教育連携協力施設の定員等について
(5) 令和4年度岡山県指定重要文化財の指定等の諮問について

7 報告事項

(1) 令和4年度教職員の勤務実態調査結果について

8 議事の概要

開会

非公開案件の採決

(教育長)

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。本日の議題のうち、協議事項（１）は、今後、議会との協議を要するものであることから、協議事項（２）は、表彰案件であることから、協議事項（５）は、教育行政の公正を確保する必要があることから、教育委員会会議規則第 12 条に基づき、非公開とするよう発議する。

委員から、議題を非公開とする発議はないか。

(委員全員)

(特になし)

(教育長)

この発議は、討論を行わずにその可否を決定することとなっているので、直ちに採決に入る。

協議事項（１）（２）（５）は、非公開とすることに賛成の委員は挙手願う。

(委員全員)

挙 手

(教育長)

全会一致により、本案件は非公開とすることに決した。

附議事項（１）岡山県教育委員会規則の一部改正について

- ・教育政策課長から資料により一括説明

(教育長)

これより採決に入る。議第 11 号について、原案に賛成の委員は挙手願う。

(委員全員)

挙 手

(教育長)

全会一致により、議第 11 号は原案のとおり決した。

協議事項（３）令和 5 年度県立高等学校第 1 学年生徒募集定員の策定方針について

- ・高校魅力化推進室長から資料により一括説明

(委員)

「公立と私立が協力して」とあるが、既に会議や打ち合わせ等を行っているのか。

(高校魅力化推進室長)

公私連絡会が年に2回開催されており、定員策定方針が協議されている。先日今年度の第1回が開催されたところである。

(委員)

作陽高校の移転に関する定員枠についてはその場で話し合われたのか。

(高校魅力化推進室長)

定員については私学協会の中で話し合いが行われるため、県教委が関わることはない。現時点では私立高校においては、美作高校と山陽学園高校が定員増を行うと聞いているが、県立高校は削減予定であり、公私比率の7対3を維持するにあたりどこの学校の定員を減らすかは議論の必要がある。

(委員)

岡山県立高等学校教育体制整備実施計画を検討するにあたり、しっかりと議論してほしい。

(教育長)

広域通信制の高校の状況はどうか。

(高校魅力化推進室長)

広域通信制の高校へ進学を希望する生徒は増えている状況である。本校に加えてサポート校にも支払いがあるため金額が高くなる傾向があるが、不登校経験者や発達障害のある方、対人関係が上手くいけない生徒が選択肢として考えるようになっている。

(委員)

広域通信制の高校は同じ学校でも通う日数によって支払う金額が異なる。

(高校魅力化推進室長)

最初は週に1回通っていた生徒が慣れてきて通う日数を増やすことでうまくいっている場合があるが、費用が掛かりすぎることから途中で断念する生徒もいる。

(委員)

アメリカ方式のスクーリングを行っている日本の子どももいる。

(委員)

長期的な見通しや方針、公私比率の割合等の協議もした方が良い時期ではないかと考える。

(高校魅力化推進室長)

次の実施計画の際には社会の状況も大きく異なっていると思われる。また、私立高校の定員数について公私連絡会においても私立のみでは決めきれないため、

県に話し合いへ入ってほしいとの声もある。

(委員)

公私比率の7対3の割合の中に私立の広域通信制の高校は含まれているのか。

(高校魅力化推進室長)

含まれていない。

(教育長)

全日制の私立高校が定員を守るかどうかも重要である。現時点では公立私立全日制の全体の進学者を比較して7対3になっている状態である。

(委員)

次回の実施計画が策定されるのはいつか。

(高校魅力化推進室長)

令和10年度である。

(委員)

令和7年度付近から現在の実施計画が社会の状況に即しているとは考えにくい。前倒しも必要ではないかと考える。

(委員全員)

了 承

協議事項(4) 高等学校における通信教育連携協力施設の定員等について

- ・高校魅力化推進室長から資料により一括説明

(委員)

岡山操山高校通信制課程の在籍者数は何名か。

(高校魅力化推進室長)

在籍数は毎年全体で1,200名程度で推移をしている。

(教育長)

通信教育連携協力施設の休止判断は毎年行っているのか。

(高校魅力化推進室長)

話し合いは毎年行っているが、連携協力施設の教員は本校の兼務扱いであり、一日中連携協力施設で待機することになるため学校側の負担も大きい。

(委員全員)

了 承

報告事項(1) 令和4年度教職員の勤務実態調査結果について

- ・教職員課長から資料により一括説明

(委員)

「保護者連絡のデジタル化」とあるが具体的に何を行うのか。

(教職員課長)

資料のデータ送付や欠席連絡など総合的なシステムを検討している。来年度に何校か試行で導入したい。

(教育長)

現在の想定は学校と保護者の双方向に連絡可能なシステムである。

(委員)

時間外在校等時間が高等学校においては令和3年度から増加している。高校は補習や文化祭、部活動等でお盆明けも連日出勤している先生もおり、負担を少なくしてほしい。

(教職員課長)

最近ではお盆の期間に積極的に休みを取るようにしているが、お盆明けから生徒のために集中して頑張ろう、という先生も多い。そのような意識改革を進めていかないといけない。

(委員)

災害時の安否確認にも役立つのではないかと思う。

(委員)

先ほどの内容であれば Google フォームでできるのではないか。

(教職員課長)

すでに Google フォームを活用している学校もあるが、機密性が高いため手が出せない、得意な職員がいない等で躊躇している学校もある。生徒向けには Google Classroom を活用することができるが、保護者とのやり取りについては活用できるものがない状況である。

(委員)

保護者に資料を渡さない子もいる。率先してデジタル化してほしい。

(委員)

時間外在校等時間の削減について目標数値まであと何時間削減しなければならないのか。

(教職員課長)

今年度の重点目標で定めた数字では、令和3年度の数値と比較して、中学校を除く校種で15%削減、中学校では33%削減を目標とすることで、月当たりの時間外在校等時間が45時間を切る。

(委員全員)

了 承

以下、非公開のため省略。

閉会